

日本と世界の子供たちを オンライン授業でつなぐ



「教室から世界一周！プロジェクト」を展開



株式会社WTOC(ウトック)のCEO堂原有美さん

株式会社WTOC
堂原有美さん



日本と世界の子供たちをオンライン授業でつなぐ「教室から世界一周！プロジェクト」を展開している株式会社WTOC(ウトック)のCEO堂原有美さん。愛知県祖父江町(現稲沢市)出身で、名古屋の大手広告代理店「三晃社」時代は「名古屋おもてなし武将隊」を仕掛けたことでも知られる。新たな挑戦をする堂原さんに壮大なプロジェクトについて聞いた。

—「教室から世界一周！プロジェクト」とは、どのようなものですか？

世界50か国以上の150以上の団体と連携をして、各地の教室と日本の教室をオンラインでつなぎ、同世代同士が意見交換できる場所を作るという活動です。具体的には、それぞれの教室あるいは各自宅をパソコンでつなぎ、対話ができる環境を作る。そこでの議題を我々と参加する学校の先生方と決めて、世界と日本の若者がディスカッションするという活動です。コロナ禍の2020年春ころから活動を始めて、会社にしたのが2021年6月。現在、年に80～100回ほど開催しています。

—WTOCと先生とが話し合うテーマ、場所を決めるということですね。

そうです。様々な特徴の国があるので、先生たちの希望するテーマを鑑みながら、それに即した国を選定していきます。授業については時差があるので、たとえばアメリカ大陸の国だったら日本は朝じゃないといけなとか、時間を調整します。ファシリテーター(進行役)として当社に何人かの大学生(インターン)が所属していて、彼らが英語と日本語で進めていき

ます。ファシリテーターは基本的には一人ですが、グループ分けをして各グループにファシリテーターが付く場合もあります。

—参加する若者たちは募集する形になるわけですか？

日本側は我々と連携した学校が北海道から沖縄まで40～50校あります。海外は日本語を学ぶ学校です。日本側は中学と高校が主で、語学の実践や文化交流などのために行いたいという希望を受けて、学校の授業の中でやります。たとえば自分たちの地域をお互いに紹介して質問しあったりして、英語と日本語で交流します。基本的には日本側の要望で、たとえば「午前中の時間ができて、英語がしゃべりたい」となったら、その要望に合う海外の学校を紹介する形になります。

—今まではどんな内容のものを行いましたか？

一番ベーシックなのが、自分の学校や地域の紹介ですが、環境問題や地域の観光、ダイバーシティについて話したりとか。ほとんどは学校側が要望する内容です。

—活動の一環で、「名古屋城×世界の文化遺